

狩野川流域での「防災・河川環境教育」

- ・防災・河川環境教育に関する取り組みは、これまで出前講座として、行政職員が小学校等に出向き、講義を行ってききましたが、多くの学校で継続的に実施することが困難でした。
- ・このため、教えるプロの教員が、通常の授業の中で「防災・河川環境教育」を行えるよう、教材、教師用指導計画、ワークシートなどを学校の教師、教育委員会、自治体の防災部局、気象台、沼津河川国道事務所が共同で作成しました。
- ・モデル校として、平成28年度から沼津市立第三小、伊豆市立熊坂小、伊豆の国市立長岡南小、平成29年度から三島市立長伏小、函南町立西小、清水町立南小、長泉町立南小で授業を実施しています。
- ・平成30年度は、新たに4校(沼津市立大平小、伊豆市立天城小、伊豆の国市立萑山小、伊豆の国市立長岡北小)で授業を実践することとしています。

授業の様子

保護者へのアンケート結果

児童は「狩野川の自然環境や過去の災害」、「狩野川で実施されている防災対策」、「避難情報」等を学習しました。

試行授業を受けた児童の約8割が、家庭で試行授業の話をしたり、児童が持ち帰ったハザードマップを通じて、保護者の防災意識及び行動の向上に寄与した。



教員が水害による被害を説明
(沼津市立第三小4年3クラス87人)



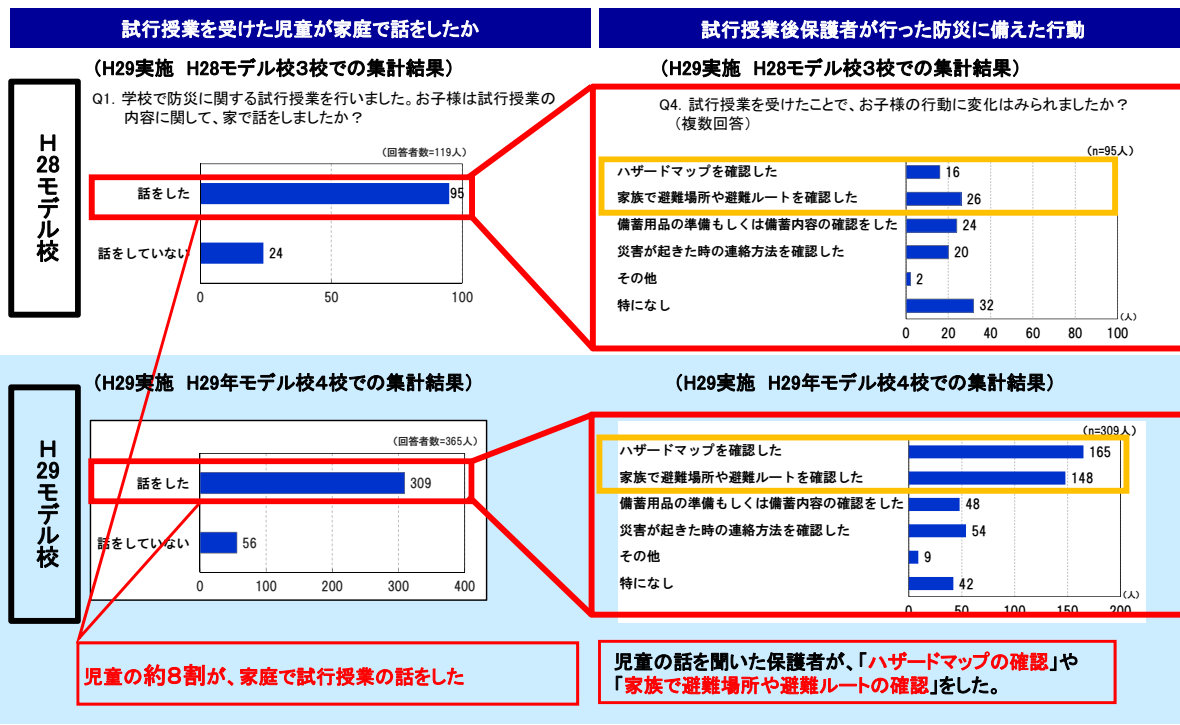
自分の家の浸水深を体で確認
(伊豆の国市立長岡南小4年4クラス109人)



「水の循環」の図の板書を
児童とともに作る
(三島市立長伏小4年2クラス58人)



授業で使用した教材



児童の約8割が、家庭で試行授業の話をした

児童の話聞いた保護者が、「ハザードマップの確認」や「家族で避難場所や避難ルートの確認」をした。